

児童図書研究室ニュース 2007.10.5

福島県立図書館 <http://www.library.fks.ed.jp>

No. 65

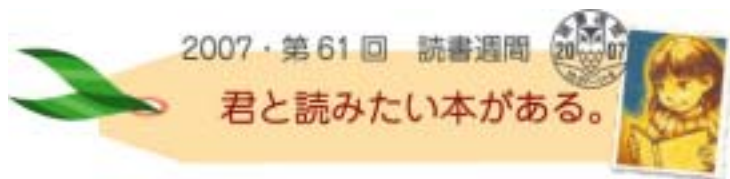
2007 読書週間 10.27~11.9

「君と読みたい本がある。」



10月27日の「文字・活字文化の日」から11月9日までの2週間は読書週間です。応募総数1676点から選ばれた今年の標語は「君と読みたい本がある。」です。この読書週間にあわせて、福島県立図書館こども

のへやでは、福島県青少年健全育成条例第12条に基づき、昭和56年から平成19年までに、青少年の健全な育成を図る上で有益であると認め推奨した書籍を展示する「ふくしまの子どもたちへ 福島県「優良書籍」展」を開催いたします。展示期間は平成19年10月5日(金)から12月5日(水)までの2か月間となっております。ぜひご来館ください。



清水真砂子氏 講演会報告

「子どもの本のもつ力～いまという時代にあらためて」

9月15日(土)、県立図書館において、児童文学研究および評論や、「ゲド戦記」の翻訳など翻訳家としても有名な清水真砂子氏(現・青山学院女子短期大学教授)をお迎えして、子どもの読書研究集会兼子ども読書活動推進講座(特別講座)の講演会が開催されました。参加者は約120名でした。

清水氏は、ご自身が教鞭を執られている短大の生徒と接する中で感じていることや今年5月に会津若松市で起きた高校生が母親を殺害してしまった事件などにも触れて、「最近の学生は親と対立することは不幸な悪いことだと思って勝手に自分を追い詰めているところがある。会津若松で起きた事件や最近の子どもが親を殺してしまう事件を見ていると、誰かが違うものさしを与えてあげる、つまり違った価値観を与えてあげていたら、その状況から救ってあげられたのと思う」と述べられました。

また本が大好きだったご自身の子どもの時代にも触れながら、「本は世界の窓。田舎町で育った私にこの世界以外にも広い世界があることを知らせてくれたのが本だった。また誰も自分の人生なんてありきたりでつまらないものだと思っているが、実はつまらない人生なんてひとつもない、それぞれの人生がかけがえのないすばらしい

ものなのだ、と気づかせてくれるのが文学。文学には、想像力をもってそれを読むことで、人生の困難な状況から立ち直らせてくれる力があるということを信じている」とお話されました。柔らかなやさしいお話ぶりの中にも、児童文学に対しての熱い信念を感じることでできた講演でした。

清水真砂子氏の評論の中で最近出版された資料を以下にご紹介しますのであわせてご覧下さい。

- ・『そして、ねずみ女房は星を見た
-大人が読みたい子どもの本-』
(テン・ブックス 2006.10)
- ・『「ゲド戦記」の世界』
(岩波書店 2006.9)
- ・『幸福に驚く力』
(かもがわ出版 2006.7)
- ・『子どもの本とは何か』
(かわさき市民アカデミー出版部 2003.4)
- ・『学生が輝くとき
-何か、こわい、この時代に-』
(岩波書店 1999.1)

平成19年度 子ども読書活動推進講座 報告

子どもの読書活動に関わっている方を対象に、県内7会場(白河市・郡山市・相馬市・いわき市・南会津町・会津若松市・福島市)において標記講座が行われました。参加者数は全講座合計で延べ1300名。

第一部は「子どもたちと本を結ぶ方法・楽しいおはなし会のコツ!」というテーマで、福島県立図書館資料情報サービス部児童資料チームの職員による講義を行いました。読み聞かせやストーリーテリングの実演や、実際に県立図書館で開催したブックトークを交えたおはなし会の様子のビデオを見ていただいたりしながら、はじめて読み聞かせボランティアの会などに参加される方にもわかりやすく楽しくおはなし会を開催するためのコツを紹介する内容でした。

午後から行われた第二部は、福島市出身で放送作家や俳優・シンガーソングライターとしても活躍されている雁田昇氏による講義・実習「わたしの朗読」でした。全員が起立して体をほぐしてから、実際に声を出して発声の

(裏面に続く)

基本を教わったり、早口ことばをグループごとに言い合ったりしました。「ごんぎつね」などの作品の一部の文章を指名された人が朗読し、先生が直接ご指導くださる貴重な場面などもあり、一人一人の個性を生かす朗読について楽しく体得することのできた実習となりました。

意見交換会も各会場で活発に行われ、それぞれの地域の読み聞かせグループからの活動報告や、小学校での図書担当の先生からのご意見や、「こんなときはどうすればいいんですか？」など率直な疑問に対して地域で活躍されているベテランの方からのアドバイスがあるなど、充実した時間となりました。それぞれの地区で活動されている皆さんの、新たな連携やさらなる活躍につながっていくことが感じられる会となりました。

平成 20 年度 子どもゆめ基金の募集について

平成20年度の「子どもゆめ基金」の募集が始まりました。「子どもゆめ基金」とは、子どもの健全育成のため、子どもの体験や読書活動などを応援するボランティア団体などに対して助成金交付などの支援活動をおこなうための基金です。助成金申し込みの募集期間は平成19年9月14日(金)～12月5日(水)です。詳しくは、独立行政法人・国立青少年教育振興機構の「子どもゆめ基金」のホームページをご覧ください。連絡先まで直接お問い合わせ下さい。

独立行政法人・国立青少年教育振興機構

ホームページ: <http://yumekikin.niye.go.jp/>

< 連絡先 >

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1

独立行政法人国立青少年教育振興機構

子どもゆめ基金部

TEL 03-5790-8117, 8118(子どもゆめ基金)

子どもゆめ基金フリーダイヤル

TEL 0120-579-081(9:00～18:00)

FAX 03-6407-7720

福島県にはこの基金の申し込みの提出窓口は設けられていませんが、福島県社会教育グループ(TEL 024-521-7794)が相談窓口になっております。

ちなみに平成19年度福島県で交付内定を受けた団体は

「しらかわ語りの会」

「読書コミュニティーネットワーク」

「絵本ワールドIN ふくしま」実行委員会

「トトロの会」

「特定非営利活動法人 夢ネットワーク」

「福島市リクリエーション協会」

の6団体です。

第 11 回 図書館を使った“調べる”学習賞コンクール

「図書館を使った“調べる”学習賞コンクール」があるのをご存知ですか？図書館の利用促進と調べ学習の普及を目的としたコンクールです。小学生から一般の方まで身近な疑問について図書館で調べたことなどをまとめて応募するものですが、学校の先生や公共図書館関係者が、子どもたちや利用者への図書館での調べ学習・調査研究への指導・支援を行った場合の発表も審査の対象となっています。興味のある方はぜひご応募ください。

< 主催 >

特定非営利活動法人(NPO) 図書館の学校

財団法人 日本児童教育振興財団(FAJE)

< 作品応募期間 >

平成19年10月15日～11月30日

< 応募資格 >

どなたでも

< 応募部門 >

・学校部門

小学生の部・中学生の部・高校生の部・指導者の部・学校(組織)の部

・公共図書館部門

図書館の部・一般利用者の部・子どもといっしょに調べる学習の部

応募要項など詳しくは NPO 図書館の学校のホームページをご覧ください。事務局まで直接お問い合わせ下さい。

「NPO 図書館の学校」ホームページ

<http://www.toshokan.or.jp/shirabe-sp/index.html>

NPO 図書館の学校 事務局

〒112-0012 東京都文京区大塚 3-4-7

TEL 03-3943-0666 FAX 03-5978-3291

国際子ども図書館・展示会のお知らせ

ゆめいろパレット

- 野間国際絵本原画コンクール入賞作品

アジア・アメリカ・ラテンアメリカから

開催期間: 平成19年9月22日(土)

～平成20年1月13日(日)

休館日: 月曜日・国民の祝日・休日・年末年始(12月28日～1月4日)・毎月第三水曜日

開館時間: 9:30～17:00

会場: 国際子ども図書館 3階本のミュージアム

お問い合わせ: 国際子ども図書館 TEL03-3827-2053

【ご質問・情報はこちらへ 福島県立図書館・児童図書研究室】

〒960-8003 福島市森合字西養山1番地

TEL 024-535-3218 FAX 024-536-4787

E-mail kodomo@library.fks.ed.jp

